

恒久平和のための「一つの世界」

～第34回世界連邦日本大会2018 in 亀岡～



約500人が参加し、世界連邦運動の理念を共有

国境を越えた地球規模での課題解決を

世界連邦とは、国家間の紛争や環境問題など一国内では解決できない地球規模の課題を扱う民主的な政府で、各国が互いに独立を保ちながら、国際機構による「一つの世界」として諸問題の対応、解決を図ろうとするものです。「世界連邦・非核平和都市」を宣言する亀岡市では、宣言に込められた世界恒久平和への思いを発信するものとして、8月18日、ガレリアかめおかに於いて「第34回世界連邦日本大会2018 in 亀岡」を開催しました。

中東和平プロジェクト

大会では、現代において、混乱・紛争が多い中東地域での和平実現こそが世界の恒久平和への近道であるとの認識から、イスラエルとパレスチナの紛争などでの遺児たちを招き、交流を通じて平和への理解を深める「中東和平プロジェクト」の取り組みによるスピーチが行われました。パレスチナ側として登壇したアマル・アブ・アヤシュさんは「悲しい

最後に、今回の大会宣言を、



パレスチナのアマル・アブ・アヤシュさん(右)、イスラエルのヤイファット・モハルさん(左)

記憶は消えることはない。多くの人に関心を持つてほしいです」。イスラエル側として登壇したヤイファット・モハルさんは「紛争の中にある地域の人たちが相互に理解しあうことが必要です」と、自らの体験から平和の大切さを訴えられました。

世界のひとともに「和の心」

また、裏千家15代・前家元の千玄室大宗匠を講師に迎え、「世界のひとともに「和の心」と題し記念講演を実施。先の大戦での従軍経験や茶道文化に通じる「和」を尊ぶ心の大切さを説かれ、「異なる文化であってもお互いを認め合うことで接点ができます。世界連邦が取り組む恒久平和実現のための運動を、みんなで広げていきましょう」と、運動の理念のさらなる高まりを呼び掛けられました。

平和を希求する想いを広く発信

最後に、今回の大会宣言を、



千玄室大宗匠による記念講演

参加された皆さんにより採択。今後も「世界連邦・非核平和都市」を宣言する亀岡市として、ますます世界連邦運動を発展させ、世界の恒久平和の実現に向け、確固とした基盤を築いていくことをあらためて確認しました。

行財政改革を推進しています ～平成29年度の取り組み報告～

「亀岡市行財政改革大綱2015-2019」では、行政運営の効率化や財政健全化に努めるとともに、本市のまちづくりの指針である「第4次亀岡市総合計画(夢ビジョン)」に掲げる都市像の実現を目指し、「持続可能な行財政運営の推進」を改革の目標とする取り組みを進めています。

平成29年度実施計画の主な取り組みとして、「健全で効率的な行財政運営の推進」では、京都・亀岡ふるさと力向上寄附金(ふるさと納税)による収入拡大に向けて、情報発信の強化や返礼品の充実にも努めました。また、持続可能なバス交通を実現するために、コミュニティバスおよびふるさとバスの運賃を改定するとともに、ふるさとバスの路線延伸を行いました。さらに、保健センター内に子育て支援業務ワンストップ窓口を設置し、妊娠期からの切れ目のない支援を実施しています。

「市民参加による行政運営の推進」では、市民による運営委員会において(公財)京都地域創造基金に設置された、亀岡N.A.W.A.S.H.I.R.O基金の立ち上げを支援するなど、地域の課題解決に向けて取り組む市民活動団体への支援を行っています。

「組織・マネジメント改革の推進」では、組織機構を再編し、効率的な事務事業の執行を図るとともに、職員の資質向上と能力開発のための研修機会の充実を図り、より一層の市民サービス向上に努めました。

これらの結果、平成29年度は、48項目の取り組みのうち47項目(97.9%)が計画以上の進捗となりました。

今後も市民の皆さんに満足していただける市政運営のため、職員一丸となつて行財政改革に取り組んでまいります。

やさしい健康講座 第127回

乳癌検診の話



亀岡市立病院 副院長 田中 宏樹 専門分野 乳腺内分科、消化器一般外科、下部消化器外科

市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の医師が、専門分野についてアドバイスをします。

今年から亀岡市では視触診は廃止となり、マンモグラフィーのみとなりました。これは諸外国に倣ったのですが、しかしマンモグラフィーも万能ではありません。乳腺濃度が高い女性(デンスマンマ)と言います)では小さな腫瘍は乳腺の中に隠れて見えなことがあります。しかしそれでも多くの女性が検診で命を救われており、多くの場合には早期に発見できるのも事実です。

乳癌はありふれた病気であり、日本女性の12人に1人は乳癌を経験します。また予後の良い癌で、早期(2センチ以下で転移が無い)に見つかった人の10年生存率は95%を超えています。そんな乳癌でもステージIVで見つかったと残念なことに10年後に生きている確率は6人に1人しかありません。すなわち乳癌は最も検診に向いている疾患なのです。また乳癌は40歳代後半に罹患率のピークがあり、そのため40歳から65歳までの女性癌死亡率の1位は乳癌です。大事な命のために面倒がらずにこの年代の人は検診を受けましょう。ただし検診は精密検査ではありません。前回検診の結果如何に関わらず、時々自分で視触診をしていただき、症状がある人は検診ではなく、専門外来にて精密検査を受けて下さい。

